

自然の迷宮を駆け巡る！

2009 年 10 月 24 日 朱雀OK希望ヶ丘ロゲイニング大会（滋賀県竜王町）

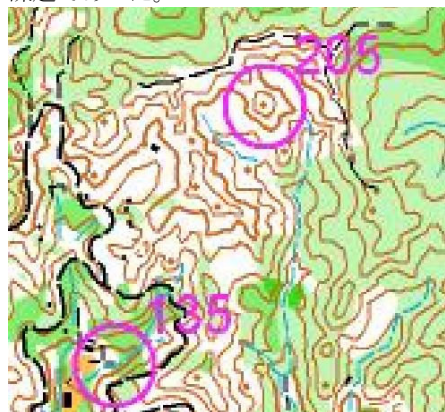
朱雀OK
大会実行委員長
関谷麻里絵

昨年に引き続き、朱雀OKが送る希望ヶ丘ロゲイニング大会。第二回の今年は、ロゲイニングのシリーズ戦に参加。さらに幅広い参加者たちが希望ヶ丘ロゲイニングに挑戦した。その勝負の行方は…！？

■”自然の迷宮” 希望ヶ丘■

これまで西日本大会や全日本リレーセクション、昨年度朱雀OKロゲイニング大会と、様々な大会が開かれてきた滋賀県の代表的トレイン、希望ヶ丘公園。地図を一見するだけでその“迷宮”ぶりは想像がつくであろう。複雑に入り組んだ尾根や沢、全体的に藪の広がるそのトレインは、これまでの大会でも競技者たちを苦しめてきた。

その難易度の高いトレインでのロゲイニング。参加者は、否応なしに高いナビゲーション能力を求められる。さらに、希望ヶ丘公園は広大な公園であるとはいえども1万分の1でA3マップに入りきってしまう限られた範囲しかない。その中で、いかに「ロゲインらしい」コースを参加者に提供するか、ということが、大会を開催する我々の課題であった。



▲希望ヶ丘の微地形とコントロール

■シリーズ戦への参入■

朱雀OKによる希望ヶ丘ロゲイニング大会は昨年も行われ、オリエンティアを中心として好評を博した。第二回になる本大会では、シリーズ戦に参加することになった。そのため、昨年度に比べ非オリエンティアの参戦が増加することが見込まれた。「非オリエンティ

アであっても十分楽しめる大会にしなければならない」という課題は希望ヶ丘というトレインの前ではなかなか大きな課題である。また、運営の効率化を図るため、計時システムとしてSIを用いることにしており、我々が使用するSIチップでは30コントロールまでしか記録できないという制約があった。昨年度の大会では、制限時間2時間半に対し、コントロールは44個使用した（計時は役員が行い、通過証明はCCを使用）。ロゲインシリーズに合わせて制限時間を3時間とすると、満点が出てしまう事は必至であると運営者の中では議論していた。

今回のコースプランナーは朱雀OKでは若手の中央大卒業・海老成直。上述のような背景を考慮し、彼は以下のようなコンセプトで今回のコースを提供した。

- ① 昨年度に比べ微地形エリアのコントロールは極力避けるようにし、非オリエンティアにも回りやすいコースを提供すること。
- ② コントロールの難易度低下、コントロール数の減少、制限時価の延長から、満点が出ることは想定する。
- ③ その代わりに、いかに満点を取れるように作戦を練るか、ということを攻略の一つのポイントとする。

満点が取れてしまうという設定は、ロゲイニングという競技の性質上賛否が分かれるところであるが、同一得点の場合はゴール順で順位を決めることとする、ということでルールを定めることにした。

■いよいよ大会当日…！！■

運営者一同色々考え、参加者を楽しんでもらえるかどうかドキドキしながら迎えた大会当日。心配していた雨も降らず、天気は曇り。

予想通り会場はオリエンティアのみならず、多くのランナーで賑わった。想定していたものの、SIの使用方法などのフォローの準備をしておらず、会場役員は説明に奔走した。

コースはシリーズクラス（上級者向け・シリーズ戦対象）とファミリークラス（中級者～初級者向け・制限時間2時間）の二種類を用意したため、転向に恵まれた当日は親子連れの家族での参加者も何組か見受けられた。

スタート15分前より競技説明を行い、地図を配布。ちなみに今回のルールは、60～450までのポスト番号がそのまま点数となる方式。1分超過ごとに50点の減点を行い、20分以上の超過を失格とした。

3分前になると役員が合図を行い、一斉に作戦タイムに入った。今回のスタート位置はトレインほぼ中央に位置する広場であり、ここからは舗装された道が三方向に向かって伸びている。これがベスト、というルート取りは人により意見が分かれ、参加者がどのように散っていくかは運営者としても楽しみな瞬間であった。個人で、仲間と、家族と、それぞれに3分間という限られた時間を使ってしっかりと作戦を練り、午前11時ちょうど、いよいよスタート！

参加者は上記三方向にほぼ均等に分かれて走りだし、勝負の行方が楽しみなスタートとなった。



▲ 思い思いに作戦を練る参加者たち

■個人は篠原夫婦

アベック優勝！

気になるシリーズクラスの競技終了は14時。13時半頃から運営者の間に緊張が漂い始めた。ちらほらと帰還を始めた参加者たち。そんな中、15分以上の余裕を残して篠原岳夫（渋谷で走る会）がゴールに姿を見せた。SIチップの読み取り結果は全てのコントロール通過。この時点で男子個人優勝者が確定した。それから遅れること6分程、西村徳真（関西地図製作所）も満点を出してのゴール。健闘を見せたが、惜しくも篠原にタイムが及ばず、2位につけた。続々と参加者がゴールをし、3位争いはかなりの接戦となったが、最終的に中村貴史が他の参加者に比べ一枚上手の点数をマークし、3位入賞を果たした。

女子の方は篠原夏子（渋谷で走る会）が女子で唯一最高得点の450点コントロールを取り、15コントロールと女子では二番目に多くのコントロールを取って帰還。優勝し、夫婦アベック優勝を果たした。2位には林佳苗（ラタマキュー）、3位は堀文音（奈良女子大学）が共に女子最多の16コントロールを回り、入賞した。

団体混合は1位アコピーズ（中嶋一史、中嶋明子）、2位馬の耳と九官鳥（藤原俊也、藤原和子）、3位閑谷学校（鈴木裕子、相原健児）となった。

3時間という競技時間設定であったが、これを超過した競技者は56名中4名と少なく、時間に対しては安全策を取った参加者がほとんどであった模様。やはり勝負の決め手はいかにたくさんのコントロールに果敢にチャレンジするか、という点であったように思われる。

▼ 個人男子優勝 篠原岳夫選手のルート



ゴールする参加者は3時間に及ぶラン、ナビゲーションによって疲労困憊といった様子であったが、マラソンを完走したかのような充実した表情が浮かんでいたのが印象的であった。

■ファミリークラスとロゲイニングの楽しみ

今回は、ロゲイニング（オリエンタリング）の普及の意味も込めて、制限時間を短く設定し、コースを若干やさしめにしたファミリークラスを設置した。このクラスでは極力参加費を抑え、何人グループでも参加できるようにした。大学クラブの初心者や子供連れの家族などが参加し、良い雰囲気になっていた。中級者にも向けた設定と、トレインの性質上、親子参加者には少し厳しいコントロールも存在したが、会場近くのコントロールもファミリークラス用にと用意したため、楽しんでくれた様子であった。ゴールの時には手をつないで仲良くフィニッシュレーンに駆け込んだり、笑顔で記念写真を撮影したりと、微笑ましい姿が見られた。

上級者が楽しむシリーズ戦だけでなく、こうした誰でも楽しめるようなクラスを用意することも重要だと思う。これを機会にこの競技の楽しさを体験し、今後も参加してくれたら嬉しい限りである。

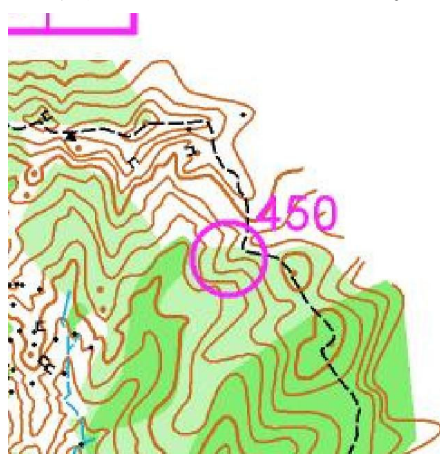
■運営はハラハラ…？

実は昨年度のロゲイニング大会、参加者がマップアウトして捜索の騒ぎがあった。今回は多くのランナーの参加が見込まれたため、さらにマップアウトの危険が多いのではないかと運営者は危惧していた。

そのため、マップアウトしやすい場所、危険箇所など事前に見入念に行った。マップアウトの可能性が高いと判断した箇所には「この先マップアウト」という警告看板をぶら下げ、出来る限り危険のないように計らったつもりである。

しかし、当日設置に行った運営者があらぬモノを発見。それは、「この先ポストはありません」という立派な看板。これは公園内のパーマネントポスト用の看板であるが、参加者の混乱を大いに招くこと間違いなし。

公式掲示板に厳重に注意書きこんでなんとか対応した次第である。幸い大きくマップアウトして迷う参加者もおらず、無事に終了して良かったと運営者はほっと胸をなでおろした。



▲最高得点はマップアウトぎりぎり！

■今後に向けて

今回、色々な制約の中運営者で頭を捻って工夫して無事大会を開催することが出来た。参加して下さった皆さんには本当に感謝の限りである。

オリエンティアだけでなく幅広い人に楽しんで頂けるような大会にしようと頑張ったが、SIシステムの説明不足やコントロール位置説明をオリエンタリング規定のもののみを使用し、日本語表記しないなど、配慮不足も少しあった。このような大会を開催する際には、しっかりと気を付けていかなければならないと感じた。

今後も朱雀オリエンタリングクラブではロゲイン、ポイント0など様々な大会を皆さんに提供していく予定である。さらに多くの参加者に楽しんで頂けるような大会を目指し、精力的に取り組んでいくので、どうぞご期待ください。

（閑谷麻里絵）